

2026 年度第 1 回空港技術懇話会

議事概要

日時：2026 年 8 月 3 日（月）12:00～13:30

場所：関西エアポート株式会社会議室

事務局及び参加各機関からの資料説明後、以下の意見が出された。

- データ基盤の整備は自動運転の導入にも関わるので、よりスピード感を持って取り組んでほしい。また、整備・導入にあたり、大規模空港を対象にすると時間がかかるので、最初は地方空港を対象に始めていくと良いのではないかな。
- データ基盤を整備するにあたり、オープンデータをどれだけ集めることができるかが重要となってくる。データを提供することで便益が出るような仕組みがあるとよい。
- 空港技術の海外展開方針(案)について、技術の展開速度は早いので、まとめることを目的とするのではなく、最新のトレンドを反映できるようなスキームを作ることが必要である。また、グランドハンドリング業務の DX および自動運転について、実証実験と実装を並行して実施するなど、導入や実装の目標の設定を 2030 年度より早めた方がよい。
- 航空局の取組については、全体における位置づけやタイムスケール等を意識した方がよい。
- 日本空港ビルデングの face express の取組は、航空事業者を含めて規格を統一させてほしい。また、自動運転バスの取り組みについても非常に期待している。弊社が検証している自動トローリングトラクターの技術と一部異なるものを使用しているが、将来的な車両の共用化を踏まえると技術も共用化することを空港ビル、航空会社双方で意識しながら進めていきたい。
- 様々な技術の標準化が進んでおり、これまでの検討結果を踏まえて、標準化する上で何が必要なのか見えてきたところ。世界の航空会社を巻き込みながら、世界標準を作っていけるよう取り組んでいきたい。